

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 一年次生 K.I

## 1. 渡航前の自分の目標

私は、将来、医療分野に携わり、患者にとって信頼される医療人になりたいと考えている。そのためには、国内の学びだけでなく、国際的な医療の現場に触れ、異なる文化や価値観のもとで行われる医療の姿を理解することが必要だと感じていた。特に、カナダは多民族国家であり、多様な患者背景に対応する医療体制が整っていると聞いていた。その現場を見学することによって、患者中心の医療や多職種連携のあり方を学びたいと考えていた。

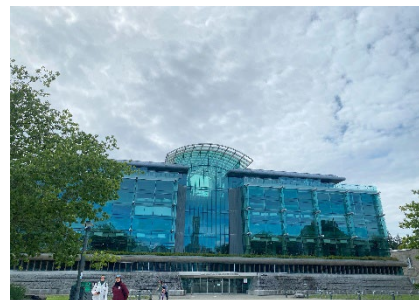
さらに、私は語学力の向上も大きな目標としていた。英語での医学用語や患者との会話表現を学び、実際の現場で英語がどのように使われているのかを体感することは、机上の勉強では得られない大きな経験になると思った。また、学びだけでなく、現地での生活や文化交流、ホームステイを通じて現地の人々と交流し、異文化を理解したいと考えていた。

## 2. その目標は渡航後どうだったか

実際にバンクーバーでの医療見学を経験してみると、私の目標は達成されたと感じる部分があると同時に、まだ努力が必要であることも感じた。

まず、医療現場の見学では、日本との違いを数多く学ぶことができた。特に印象的だったのは、患者と医療者の関係性の近さである。カナダでは患者と医療人は立場の差があまりないと聞いた。日本ではどうしても医療者主導の傾向があるため、患者中心の医療を実現するには、このような姿勢が不可欠だと感じた。

一方、語学の面では自分の未熟さを実感した。日常会話を聞き取ることはできても医療用語や専門的な説明をすべて聞き取るのは難しかった。相手の英語を聞き取れたあと、自分が伝えたいことを言語化するのに苦労したことや、知らない医療用語がまだまだたくさんあったことは今後の学習課題として持ち帰ることとなった。また、ホームステイや現地の



人々との交流は、異文化を理解する良い機会となった。

### 3. これからの自分

今回の経験を通して、私は自分の将来像をより明確に描けるようになった。医療の知識や技術を高めるだけでなく、患者はもちろん、人とコミュニケーションを自らしようとする姿勢が大切であると強く感じた。

今後は、英語の学習を継続的に進め、医療現場で通用する実践的な会話力を身につけたい。そして国内外問わず、多様な人々との関わりを大切にしたい。今回の経験はあくまで出発点であり、将来、国際的な医療交流や留学に挑戦するための第一歩として活かしていきたいと考えている。

### 4. 医療施設見学

病院では現場で働くスタッフや日本人の看護師さんの説明を受け、多職種連携の重要性を改めて実感した。医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフが一堂に会してケースカンファレンスを行い、それぞれの視点から患者の治療方針を検討していた。実際に患者が入院している病棟も見学させてもらった。リハビリテーション室では患者みんなが笑顔で、私たちに話しかけてくれたことが印象的だった。また、薬局では薬剤師が実際に薬を調合するところや、薬物依存症の患者さんに対して、必要量の麻薬を管理・投与する過程も見学した。どれも日本との違いを感じるものだった。



## 5. 語学学習

私たちは Cornerstone International Community College にて現地のカナディアンの先生から英語のレッスンを受けた。まず、先生の英語を聞いたときに感動した。発音や抑揚が日本で聞ける英語とはかけ離れたものだった。さすが現地だと思った。綺麗な英語を聞くと自分も喋れるようになりたいと思い、英語を学ぶモチベーションの向上にも繋がった。また医療用語について知らないものが大半であったので学習を続けたいと思った。



## 6. 交流体験（ホームステイなど）

ホームステイでは、最初はシャワーの時間であったり、家に帰ったら部屋着に着替えるなど、生活リズムやその家のルールに戸惑った。しかし、慣れるうちに違いを楽しむことができた。ホストファミリーからバンクーバーの日常を教えてもらったり近くの観光地に連れて行ってもらったりもした。ホームステイ先で過ごす時間は安心できるものだった。

## 7. 最後に

以上の経験を通して、私は医療人としての将来像を具体的に考えるとともに、自分の課題を明確にすることができた。今回の渡航で得られた学びと気づきを大切に、今後の学業と将来の進路に活かしていきたい。

